

日本サッカー協会のコンプライアンスへの取り組み

皆さん、「コンプライアンス」という言葉をご存知でしょうか。「コーポレートガバナンス(企業統治)」の基本原理の一つで、法律や規則を守ることだけでなく、社会規範や企業倫理などを遵守することを意味する言葉です。

凶悪な事件もそうですが、飲酒運転や不正や不祥事、いじめなど、社会規範や倫理に反する事件が頻繁に起こっていることは非常に嘆かわしいことです。

このような社会背景もあり、各企業や団体では、CSR(企業の社会的責任)とともに、コンプライアンスの意識が高まっており、社内ルールの確立や業務マニュアルなどの整備などを積極的に推し進めるところが増えています。

日本サッカー協会も4月から、「就業規則」に加えて「役員の服務に関する規程」と「役職員行動規範」を定め、これまで以上に社会的な行動を意識し、この行動規範に従って公正・公平に業務を遂行することを推し進めていくことにしました。

日本サッカー協会(JFA)は、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」ことを理念に掲げています。この理念を遂行する団体だからこそなお、役職員一人ひとりが高い理想と倫理観を持って業務に邁進しなければならないのです。

開かれた協会を

日本サッカー協会、各都道府県協会は、全ての関係者の声に耳を傾け、また、迅速かつ誠実な対応で活動に取り組んでいきたいと考えています。昨年、一部のメディアで不当な記事が報道されたことがありましたが、これまでもJFAは、公正・透明性をもって業務を遂行してきました。特に「キャプテンズ・ミッション」を策定して以降、CHQ(キャプテンヘッドクォーターズ)が中心となって47都道府県サッカー協会(FA)をくまなく回り、JFAの考えを伝え、また、各FAが抱える課題や問題点をヒアリングし、改革や改善に向けて取り組んできました。最初、トップダウンでスタートした活動もボトムアップへと変貌を遂げ、現在ではほとんどのFAが法人格を取得し、意欲的に地域のサッカー普及・振興に努めています。

JFAでは、定期的に行われる会議などで役員や関係者の意見を聞き、すぐに改善できるものについては迅速に対応しています。協会内はもちろん、都道府県協会や各種連盟、登録している多くのサッカーファミリーに対しても情報を発信し、会議やインターネットなどを通じて情報の共有に努めています。また、ファンの皆さんから来る抗議文やご提案についても出来る限りお答えするようにしています(誹謗中傷を目的とした抗議はこの限りではありません)、ホームページや機関誌を通じてJFAの考えなどを積極的に訴求しています。

メディアに対しても同様です。JFAに好意的なメディアばかりを優遇するようなことは一切なく、取材の目的、内容、日時など確認した上で対応しています。また、取材時間が調整できないときは書面を持って回答する、あるいは、取材に応えられない場合はその理由をきちんとご説明するなど、誠意を持って対応することを広報部の身上として業務を行っています。もちろん、取材するメディアに対しても取材要項などを配布し、決められたルールのもとに取材活動をしていただくようお願いしています。

このように誠意を持って対応をしているにもかかわらず、中には最初から批判あるいは中傷する意図で、一部の人の発言や意見のみを取材したアンフェアな記事が出ることもないわけではありません。メディアにとっては取材の機会があり、関係者にとっても意見や提案を言う場が開かれていると

いうのに、その場や機会を利用せずに偏った記事などが報道されることは非常に遺憾なことといわざるを得ません。批判するのであれば批判するだけの事実を持って発言あるいは報道してほしいと思います。

スポーツ団体としての責務

JFA の行動規範にも明記していますが、「法令や社会規範を遵守する」ということは言うまでもありません。

これまでも JFA やJリーグなどでは、飲酒運転撲滅、ドーピングや違法ドラッグの禁止、フェアプレーの推進など、我々関係者が遵守することはもちろん、試合会場などやホームページなどを通じてサッカーファンやサッカーファミリーにも訴えてきました。サッカー活動の中で競技規則の違反や JFA の規約に反した行為が行われた場合は、規律委員会や裁定委員会で調査・検討し、その行為に見合う罰則を科しています。万が一、法令や JFA の行動規範に反する事態が起こった場合は、迅速に原因を究明し、再発防止に努めていく考えです。

また、これとは別に、サッカーファミリーの安全確保に努めることも重要な責務です。安全で快適なスタジアム環境を構築すること、セキュリティ体制を万全にし、個人情報や機密情報をきちんと管理することも重要です。私たちは関係する全ての組織、個人の協力も得ながら、社会の一員として、スポーツ界を代表する団体として、ルールの徹底を進めていきます。

コンプライアンスの意識とフェアプレー精神を持って

スポーツ団体である JFA にとっては「フェアプレー精神」という、スポーツマンとして、また人間として持つべき概念が全ての行動の基本になっていますし、社会的に注目される団体でもあるので、職員一人ひとりの意識は非常に高いと自負しています。

「フェアプレー精神」あるいは「スポーツマンシップ」とは、ルールを守り、公平・公正な行いをする事、相手に敬意を払い、目標に向かって真摯に取り組むこと。つまり、社会生活を営む上でも十分通用する重要なものだと考えます。JFA はその概念を「JFA サッカー行動規範」に具体的に記し、サッカーに関わる全ての人々に対し、“サッカーを愛する者”としての誇りと道徳心を持って行動するよう訴えています。フェアプレー精神を持つことはもちろん、どんな状況でも全力を尽くしてプレーすること、相手チームやレフェリーにも友情と尊敬を持って接すること、勝利の時は慎みを忘れず、敗戦も誇りある態度で受け入れること、サッカー仲間を増やすこと、サッカー環境をよりよいものとする努力をすること、薬物の使用や差別などスポーツの健全な発展を脅かす社会悪にも立ち向かうこと、感謝と喜びの気持ちを持ってサッカーに関わることなど、11 からなるサッカー行動規範を明記しています。

JFA の業務は日本代表の強化だけではありません。人材の育成、フェアプレー精神の啓蒙、青少年の健全な成長への寄与、国際貢献など、その活動は多岐にわたっています。

今年スタートした「JFA こころのプロジェクト」、「キッズ・プログラム」しかり、次代を担う子どもたちには特に、フェアプレー精神や夢を持つことの素晴らしさをきちんと教え、社会をリードできる豊かな人間性と社会性を持った人材を育てたいと考えています。それには、スポーツ振興に携わる私たち一人ひとり——各地で活動する草の根の指導者から協会の役員、スタッフまで、コンプライアンスの意識やフェアプレーの概念を強く持っていることが必要不可欠なのです。

スポーツの価値

スポーツは運動が得意な人のみがその喜びを享受できるというわけではありません。たとえ運動が苦手でもスポーツの楽しさや感動は等しく感じられるものです。みんなで力を合わせて目標を達成す

ることの素晴らしさ、勝利の喜び、達成感、充実感、敗北の悔しさ、次に向けてがんばろうという意欲等々、子どもから大人まで、どんな人も持てる人間らしい感情です。地域社会の結びつきや家庭環境も複雑になっている現代社会で、スポーツは人間性を育む様々な感情を育むものですし、人と人との結びつきを強固にし、社会性や人間らしさを享受できるものだと思っています。

私たちは、スポーツを通じて、人々の心身の健全な発達に寄与し、人々の生活を豊かにできるよう、常に社会とのコミュニケーションを図り、強い信念とフェアな気持ちを持って業務に取り組んでいきたいと考えています。